

東福寺～塔頭、通天橋「青紅葉」を楽しむ

5月13日

案内人 洛中洛外ガイドクラブの方 (4人)

2班担当

東福寺 豆知識

- ・ 1236年（嘉禎2年）に摂政・九条道家が建立を発願し、1255年（建長7年）に伽藍が完成した。その後、度重なる火災に見舞われたものの、その都度重要な建物は再建され1934年（昭和9年）の本堂再建により現在の姿が完成した。
- ・ 奈良東大寺の「東」と興福寺の「福」を取って名付けられた。
- ・ 寺院の広さは、約24万平方メートル（甲子園球場の約5倍）で、現在25の塔頭（たちちゅう）がある。（中世では、約70の塔頭があったそうだ。）
- ・ 三門、方丈庭園、通天橋からの眺め等の見どころが多い。
- ・ 京都五山の1つである。（他は天龍寺・相国寺・建仁寺・万寿寺で、南禅寺は別格）

参拝・見学したところ

御門、塔頭を含めて約20カ所を巡った。



日下門



天得院（塔頭の1つ）



六波羅門



門柱のキズ
戦いの跡(?)



勅使門



・ 五間三戸、重層入母屋造り、高さは約22mで大変迫力があった。

・ 楼上には、宝冠釈迦如来や十六羅漢の諸仏等が安置されているそうだが、残念ながら見学出来なかった。

・ 三門は「三解脱門」（空門、無相門、無願門）の略で、悟りに至る三つの関門の象徴で、所謂「山門」とは一線を画する。

三門



太閤柱



ボランティアの
説明を聞く。



明暗寺（塔頭の一つ）
明暗流の尺八根本道場

東司



内部の様子

- ・東司は「とうす」、または「とんす」と呼び、トイレのことである。
- ・外部は70m×10m、高さ10mの木造建築である。
- ・内部は、窓から見る限りにおいて、広い土間の地面に沢山の半球の穴がつけられていた。(左右にある)
- ・使い方も禅の修行の一つとして、厳しい決まりがあったようだ。
- ・一度に多くの人の利用が可能だったことから「百雪隠」と呼ばれた。

さて、皆さんならどのようにして利用しますか？



本堂



- ・高さ25.2m、間口41.4mで、重層入母屋造り。
- ・創建当初の仏殿には、15mの釈迦仏像が安置されていたが、1881年の大火で焼失し、いまは左手首から先(約2m)が残るのみ。(撮影禁止)
- ・天井画の「龍」が睨みをきかせていた。(同上)



絶景！絶景！ 通天橋を囲む緑海



通天橋



通天橋から方丈側を望む



通天橋から臥雲橋側を望む



庭園内



展望台からの説明



遊歩道から展望台を望む



臥雲橋から通天橋を望む

開山堂



左側が枯山水庭園(写真は、お堂側から撮影)

左側が池泉鑑賞式庭園である。(楼門側から撮影)



禅堂 (修行僧の学校)



愛染堂



同聚院(働く女性の守り本尊)



退耕庵(玉章地藏と小町百歳像がある)

(参考) 東福寺の境内図



- | | |
|---------|-------|
| ① 三門 | ⑨ 偃月橋 |
| ② 本堂 | ⑩ 庫裡 |
| ③ 禅堂 | ⑪ 通天橋 |
| ④ 東司 | ⑫ 開山堂 |
| ⑤ 殿鐘楼 | ⑬ 愛染堂 |
| ⑥ 六波羅門 | ⑭ 月下門 |
| ⑦ 浴室 | ⑮ 方丈 |
| ⑧ 十三重石塔 | |